

文部省特選

芸術祭大賞

教育映画祭最優秀作品賞・

文部大臣賞

毎日映画コンクール

教育文化映画賞

キネマ旬報ベストテン第一位



ニコライ堂
(東京都神田駿河台)

●企画—文化庁

●製作—株式会社桜映画社

●監修—村松貞次郎

●記録映画—28分・カラー

●価格—16% / ¥195,000
VTR / ¥50,000

見飽きぬ美しさ・風格

明治の洋風建築

●製作スタッフ

監督—村山英治

脚本—

撮影—大塚誠一

音楽—山内忠

解説—久米明

●この映画の見どころ

東京大学名誉教授 村松貞次郎

明治の洋風建築には、新しい文明に触れた先人たちの衝撃と昂奮が息づいている。フロックコートに山高帽、シャッポに信玄袋にコーモリ傘。あまりにも軽くスマートになりすぎたわれわれの衣一枚下には、この明治があるのだ。“人間らしく”の合言葉のもとに、骨太な明治を再発見するのも、われわれ自身の原点に立ちかえることになろう。

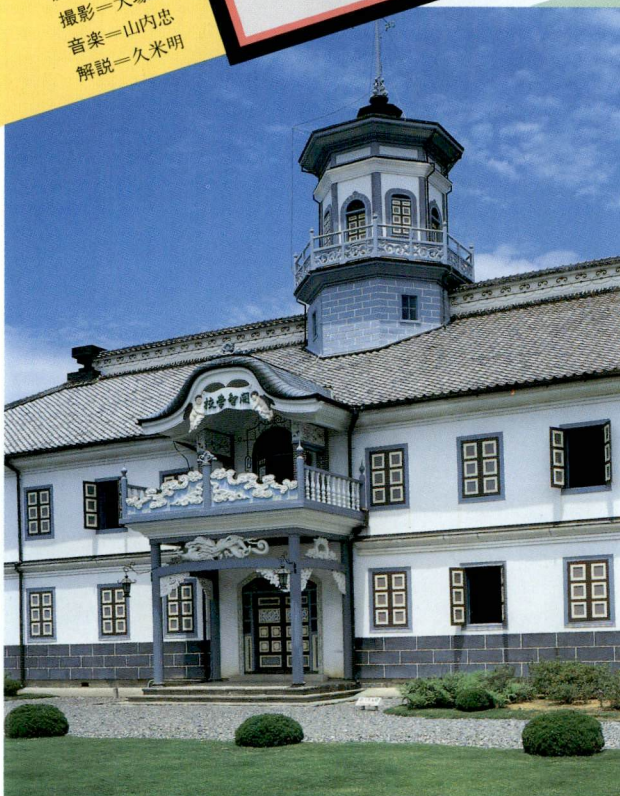
時代の精神と技術と材料、言いかえればココロとワザとモノ、その三位を一体に現しているのが建築であり、もっとも有能で雄弁な時代の証人である。ことに、和・洋の文明がはげしく渦を巻いた明治の洋風建築にはその感が強い。

この映画「明治の洋風建築」は、それを見事につかみ、そして的確に伝えていて、しかも美しい。明治建築の研究者の一人として、これはまことに嬉しい作品でもある。

(建築史家)

元・国立近代美術館長 岡田 譲

映画「明治の洋風建築」にはさわやかな感動を覚えた。それは“近代”を追った明治の建築家のひたむきな姿勢と、彼らの手に成った洋風建築に明治の魂が美しく宿り、その背後の時代の流れをも巧みに語っているためだろう。



開智学校(松本市)

●配給—

明治の洋風建築

●対象・用途

成人/一般教養
 大学/建築史・美術史
 高校/日本史—近代文化の発達
 美術—鑑賞・日本の建築
 中学/歴史—明治文化
 美術—鑑賞・日本の美術



大浦天主堂(長崎市)

●あらすじ

生き残った明治時代の洋風建築には、明治の日本人の魂が美しく宿っている。

時代は幕末から明治の終りまで、場所は南は九州の鹿児島、長崎から、近畿地方、中部地方、東京、東北地方、北海道へと、カメラは代表的な建物を追っている。

桜島の噴煙を望む集成館の機械工場。長崎港を見おろすグラバー邸や大浦天主堂。

地方に残る珍しいものでは、新潟税関庁舎や富岡製糸所(群馬県)、開智学校(松本市)、済生館本館(山形県)、北海道に渡ると札幌農学校畜舎、演武場(時計台)、豊平館、道庁本館などが、時代の夜明けをうたっている。西洋をつよく意識して生き、西洋文化にためらいもなく取り組んだ当時の日本人のひたむきな努力と創意工夫を、そのユニークな洋風建築に鮮やかに見ることができ。

最後は、赤坂離宮(現・迎賓館)。これは外観だけでなく室内装飾、家具調度にまで及んでいる。この宮殿は明治洋風建築技術の総決算であった。

明治の洋風建築は、赤坂離宮や日本銀行本店、その他格別の石造建築も後期には現れるが、多くは木造建築である。西洋ではめったに見ることのできない独特の美しさをもつ西洋建築である。そこには「近代」を追った明治の建築家のひたむきな姿勢と、すぐれた伝統技術をもつ大工たちの工夫の数々を、如実に見ることができ。

明治の洋風建築は、日本の近代建築の夜明けを語る貴重な文化遺産である。そこに明治の日本人の夢を鮮やかに見ることができ。

この映画に出てくる建築物

(登場順)

集成館機械工場	(鹿児島市)	演武場(時計台)	(札幌市)
グラバー邸	(長崎市)	豊平館	(札幌市)
大浦天主堂	(長崎市)	北海道庁本館	(札幌市)
東山手十二番館	(長崎市)	熊本第五高等学校	(熊本市)
リンガー弟邸	(長崎市)	ニコライ堂	(東京都)
新潟税関庁舎	(新潟市)	三菱旧一号館	(東京都)
桜宮公会堂玄関	(大阪市)	日本銀行本店	(東京都)
泉布館	(大阪市)	岩崎邸	(東京都)
富岡製糸所	(群馬県)	ハッサム邸	(神戸市)
開智学校校舎	(松本市)	聖ヨハネス教会堂	(明治村)
三重県庁舎	(明治村)	小寺家厩舎	(神戸市)
東山梨郡役所	(明治村)	横浜正金銀行本店	(横浜市)
済生館本館	(山形市)	慶應義塾図書館	(東京都)
札幌農学校畜舎、倉庫	(札幌市)	赤坂離宮(現・迎賓館)	(東京都)



東山梨郡役所(明治村)



ハッサム邸(神戸市)



新潟税関庁舎(新潟市)